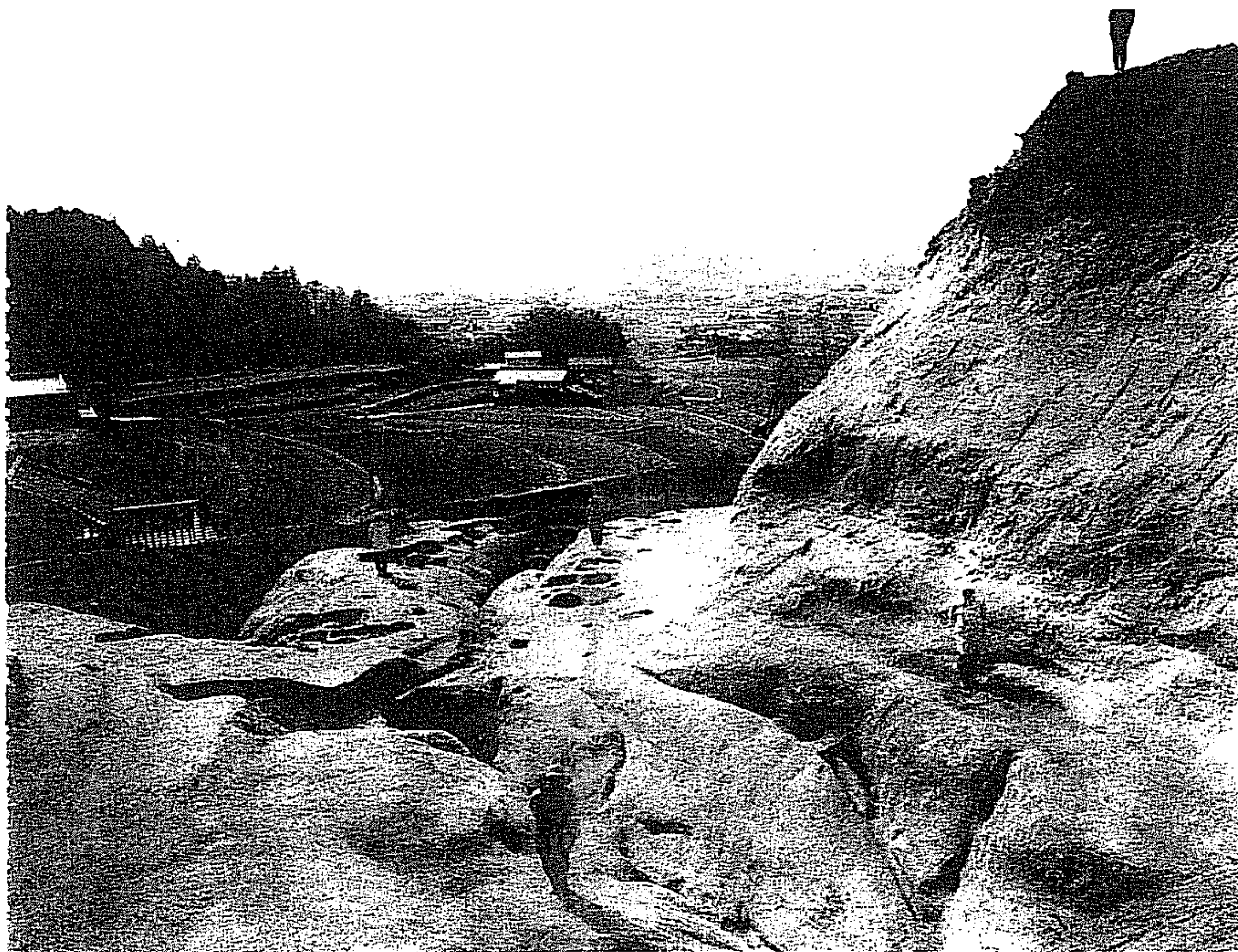


2001年8月4日 印

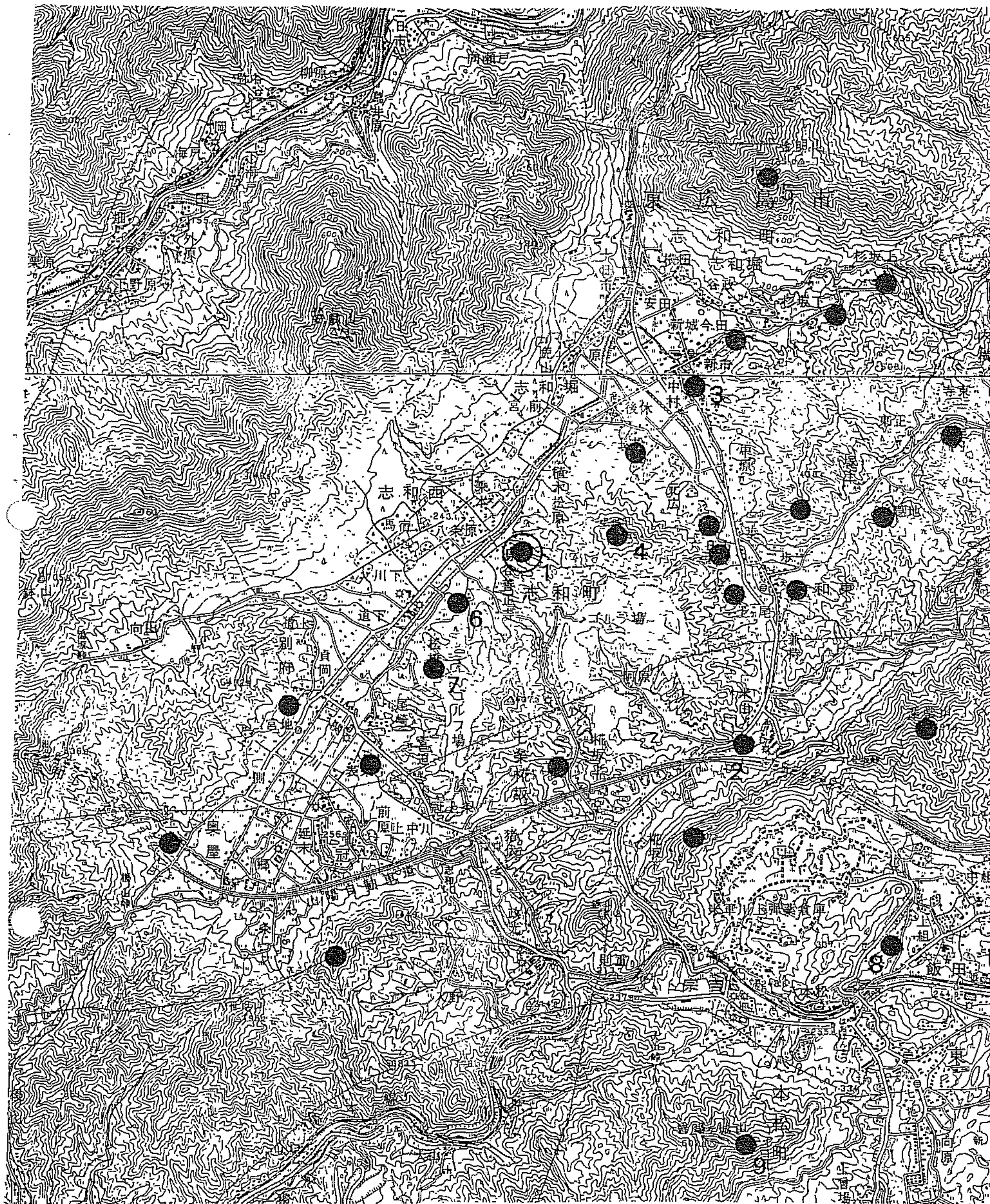
東広島市志和町大字志和西

岡城跡発掘調査遺跡見学会資料



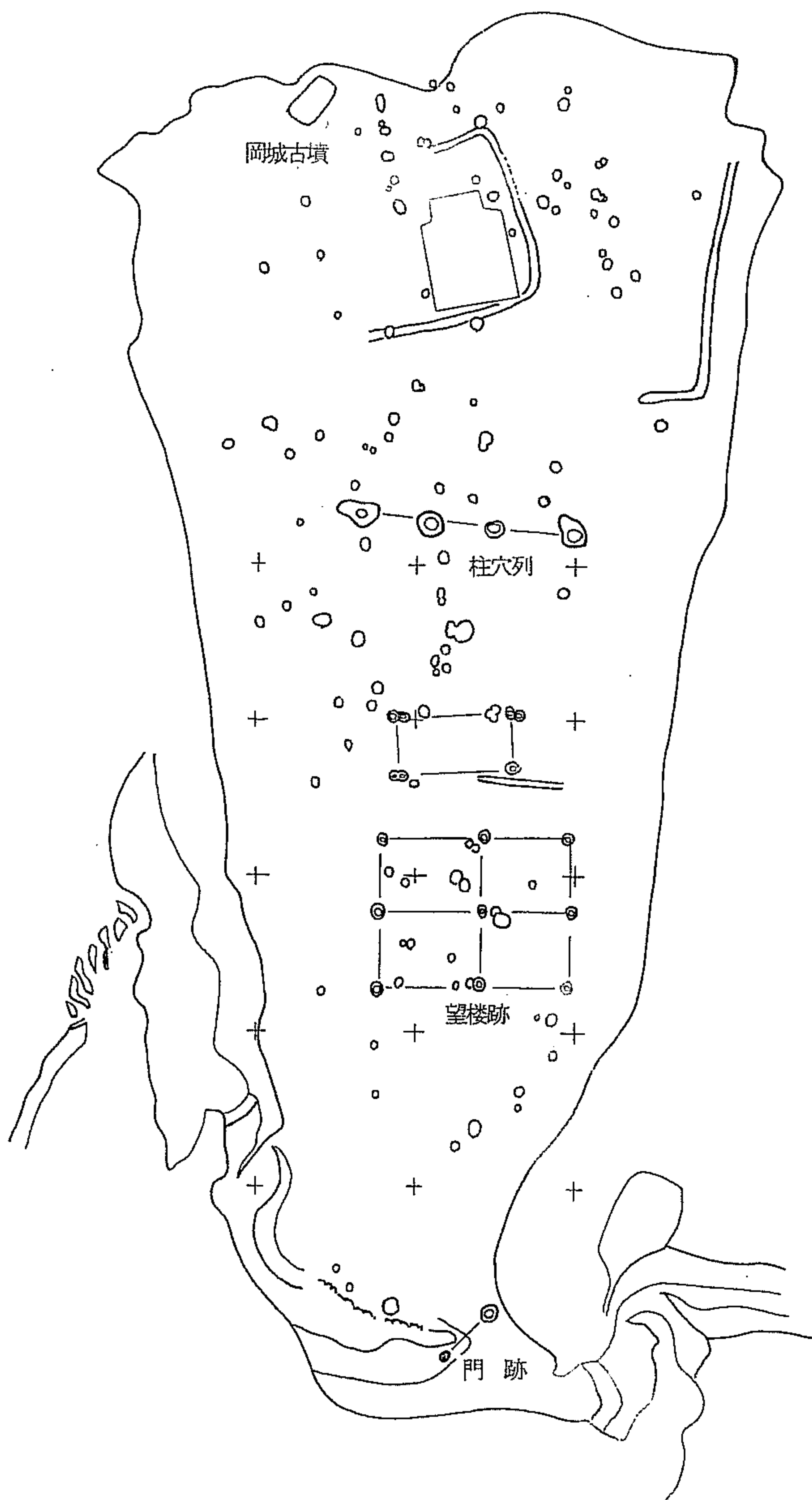
財団法人東広島市教育文化振興事業団

・東 広 島 市 教 育 委 員 会

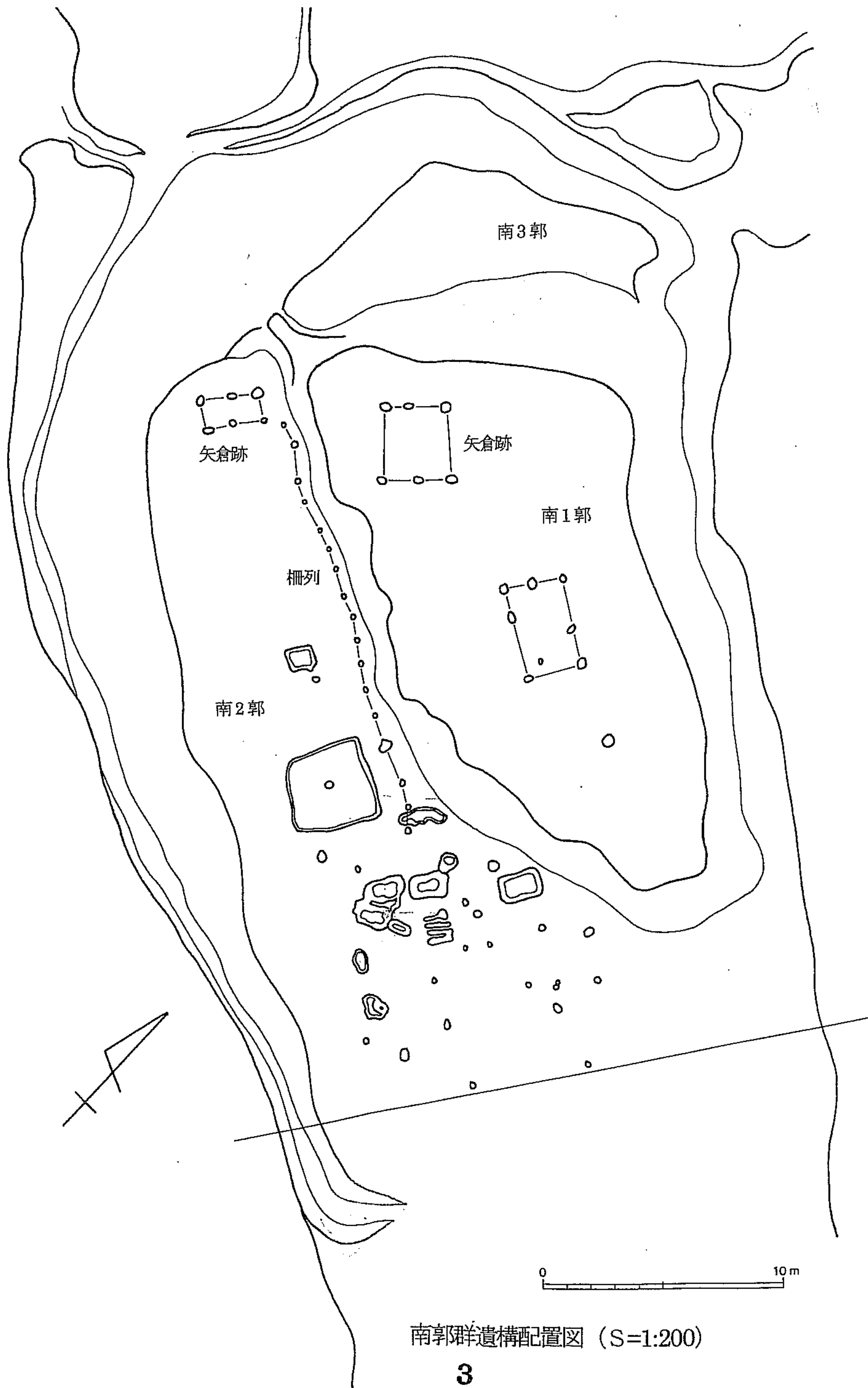


周辺城跡分布図 (S=1:50,000)

- 1 岡城跡 2 米山城跡 3 財崎城跡 4 生城山城跡 5 金明山城跡 6 秋森城跡
7 松橋城跡 8 土居遺跡 9 和城跡



北1郭遺構配置図 (S=1:200)



南郭群遺構配置図 (S=1:200)

I はじめに

岡城跡は、東広島市志和町大字志和西に所在する中世の山城跡です。志和盆地の中央にそびえる生城山の西麓に位置し、文字どおり小高い岡の上に築かれていました。城跡からは、志和盆地の西側を一望の下に収めることができ、抜群の立地を持っています。

この城跡の存在は古くから知られており、戦国時代、志和盆地を治めた天野氏の一族岡氏の居城であったと伝えられています。

このたび、災害防止事業に伴って城跡の大部分を削ることになり、平成12年11月から約4ヶ月間、発掘調査を実施しました。調査面積も約3000㎡と遺跡の大部分に及び、南北朝時代から戦国時代にかけての大規模な城跡の全容をほぼ知ることができました。

II 調査の概要

岡城跡は、ほぼ南北に細長い丘陵の先端に造られており、先端部から順に西郭群、北郭群、東郭群、南郭群の大きく4つの郭群に分けられます。中心になるのは北郭群と見られており、調査は西郭群を除くすべての郭群に及びました。

調査の結果、北郭群からは、数多くの柱穴が見つかり、後世の天守閣に相当する望楼跡や大型の建物跡などが存在したことが明らかになりました。また、石垣を貼った土塁や櫓形状の遺構など極めて堅固に造られた城であったことがわかりました。

南郭群では、建て替えの痕跡のない3棟の建物跡が見つかりました。内2棟は見晴らしの良い曲輪の端に造られ、矢倉の跡であることが推測されました。

北郭群と南郭群に挟まれた東郭群では、北郭群に登る通路状の土塁とその土塁を守るための堅堀が見つかりました。また、曲輪の平坦面の下からは大規模な空堀の跡が3条見つかっています。

出土遺物は、小さな破片も含めて2千数百点が見つかり、土師質土器の土鍋、皿、茶釜や青磁の椀や大皿、天目茶碗など多様な遺物が出土しています。

III 遺構と遺物

1 遺 構

望楼跡 掘立柱建物跡で、柱間は2間×3間の総柱建物跡です。規模は5m×6mを測ります。柱穴の大きさは直径30～40cm、深さ約80cmのしっかりしたもので、風を受けても倒れないように強固な造りになっていることから、高層の建物である望楼などの跡と推測されます。

柱穴列 主殿など、大型の建物の一部と見られる柱穴列で、4本分確認されます。柱穴の大きさは直径40～50cm、深さは約80cmを測ります。両端の柱穴は柱を抜いた痕跡があり、その後で穴に石をぎっしり詰めていたことから、建物を修復したことを示していると考えられます。

門 跡 北1郭の東南端に位置する2本の柱穴によって構成されており、北側の柱穴は直径約50cm、深さは約1mもあります。周辺の柱穴と合わせて矢倉

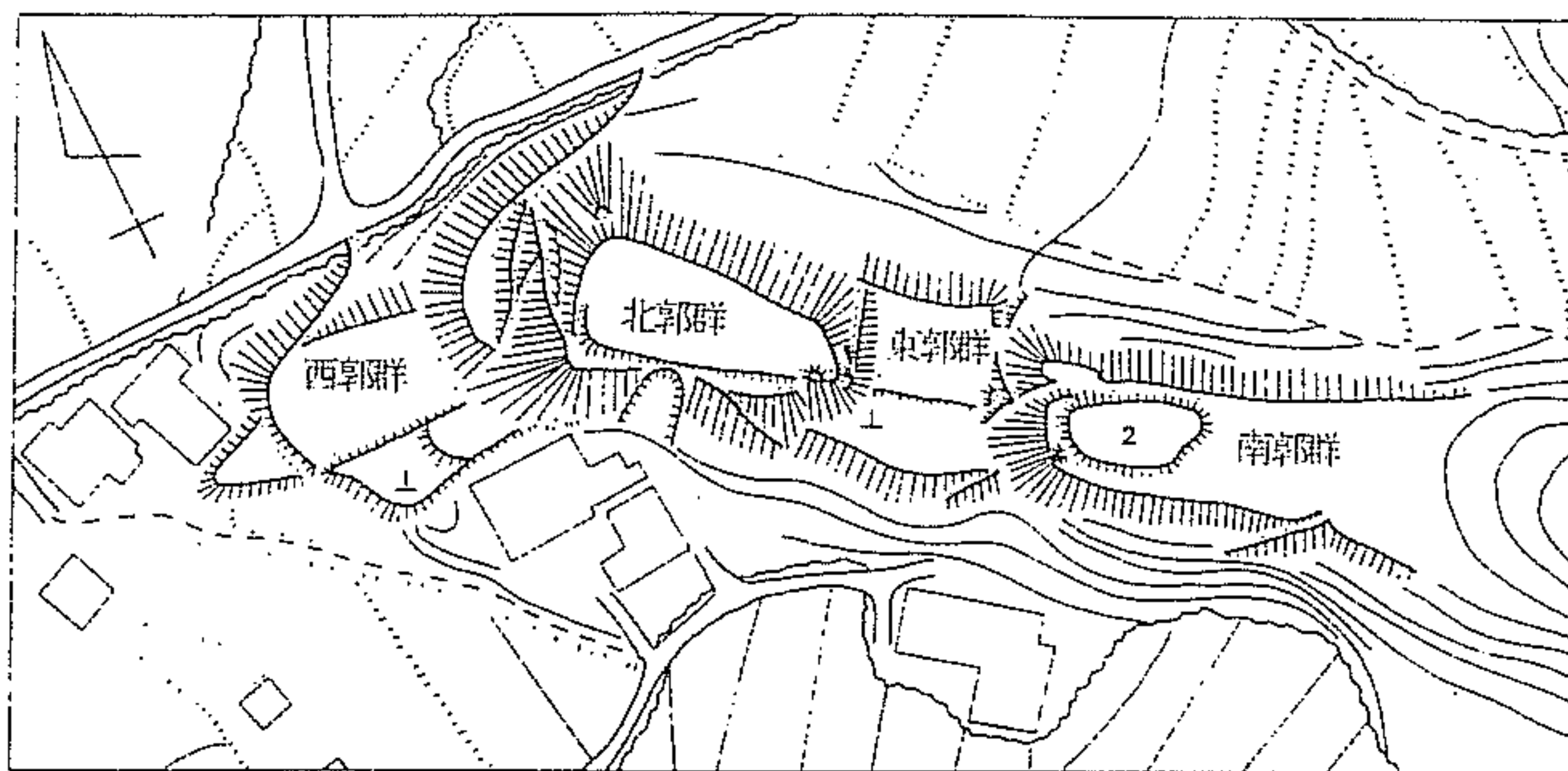
おが
岡城跡 (岡ノ城跡) 東広島市志和町志和西

現状 山林、畑、寺社境内地、墓地 保存状況 一部壊 立地 丘陵先端 標高250m 比高15m

参考文献 「山城実測報告書①「岡城」」, 「日本城郭大系」, 「賀茂郡史 - 中世武士編 -」

概 要

北側の1郭は神社建設, そこから西に延びる尾根は畑の開墾による破壊がみられる。1郭の南は堀切状の鞍部を挟んでピークに2郭を配する。2郭と南の鞍部との比高は2mと低い。



岡城跡略測図 (1:2,000)

『広島県中世城館遺跡総合調査報告書 第二集』



望楼跡

門が造られていた可能性もあります。

1号堀 東2郭で見つかった空堀です。東3郭の西側を区画するようにめぐっています。延長は約30m、幅約5m、深さは約3mあります。東側に向かって徐々に浅くなることから、通路としても使われていたと考えられます。

2号堀 東2郭で見つかった堀切です。北郭群の背後を断ち切るために造られたと考えられます。東2郭を造る際に削られています。幅約7m、深さ約5mの規模で残っています。

3号堀 東1郭で見つかった堀切です。2号堀とともに北郭群の背後を断ち切る目的があったと思われます。やはり東1郭を造成する際に削られています。幅約5m、深さ約3mの規模で残っています。

矢倉跡 南郭群で2棟が見つかっています。いずれも1間×2間で、南1郭のものは3m×3m、南2郭のものは2.5m×1mです。どちらも盆地と東郭群が見渡せる曲輪の先端部に位置しており、北郭群や東郭群を意識した造りになっています。

柵列 南2郭で見つかりました。矢倉跡から南1郭の西側裾をめぐるように造られています。南1郭の防御を補強したものと思われます。

2 遺物

遺物は総数で2千数百点が出土しています。そのほとんどは土師質土器で、そのほとんどは土鍋の破片です。次に皿や小皿が多く、擂鉢や茶釜型の土器も一定程度出土しています。陶磁器はごくわずかですが、備前焼の甕や擂鉢、瀬戸焼の鉢や天目茶碗なども見られます。ほぼ完形の極小天目茶碗は、舶来の強いお酒を飲むためのお猪口のようなものと考えられます。中国から渡ってきた焼物には白磁や青花、天目茶碗などがありますが、青磁が最も多くの破片を出土しています。最も多いのは無文で端反の碗で次に雷文帯の碗や直口の碗、細線の連弁文の碗などが続きます。盤や香炉の破片も少量出土し、豊かな城内の生活の一端を垣間見せています。

土器や陶磁器以外では銅銭や基石、釘なども見つかっています。

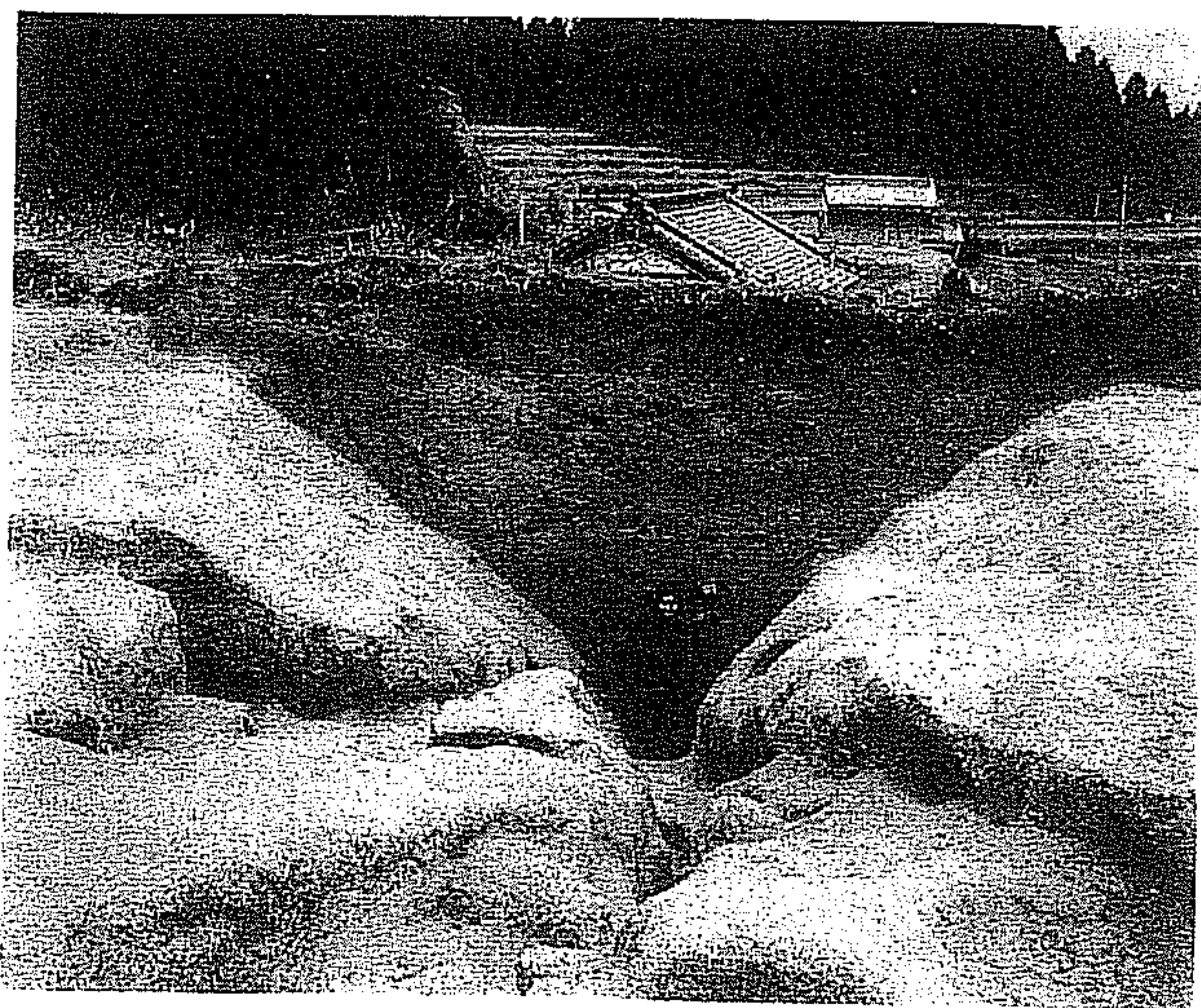
IV 岡城跡の特徴と変遷

岡城跡は、出土遺物から南北朝時代の終わり頃築城されたと考えられますが、当初は南郭群は無く、北郭群に東3郭、西郭群が付属した城として造られたようです。ただこの1期の岡城は戦国時代以前の城としては全国でも有数の規模を持つ空堀群を持ち、その上周囲を12~15mの切岸と呼ばれる崖を巡らせる全国でもまれに見る要害堅固な城だったようです。

本丸にあたる北1郭には修復の痕跡を示す建物跡も多くあり、築城当初の様子を知ることは困難です。築城当初の遺物は土器が極端に少なく、むしろ陶磁器のほうが多く見られますが、陶磁器は大事に使われるので古いものが残り、消耗の激しい土器は壊れ次第どんどん外部に廃棄されたと考えることもできます。



1号堀



2号堀

2 期は、東郭群の堀を埋め、南郭群を造成した時期で、戦国時代の前半代と考えられます。

かなり大規模な改修で、堀を埋めた空間は東 1,2 郭という広大な曲輪に変わり、大規模な駐屯空間として、また、敵を誘い込んで北郭群と南郭群によって挟み撃ちにするための空間として生まれ変わったようです。合わせて北 1 郭の通路も一新し、一段と防御力が強化された城になっています。

南郭群は、北 1 郭の補助的な曲輪として造られたようで、遺物も少なく、生活の痕跡はほとんど見られませんでした。

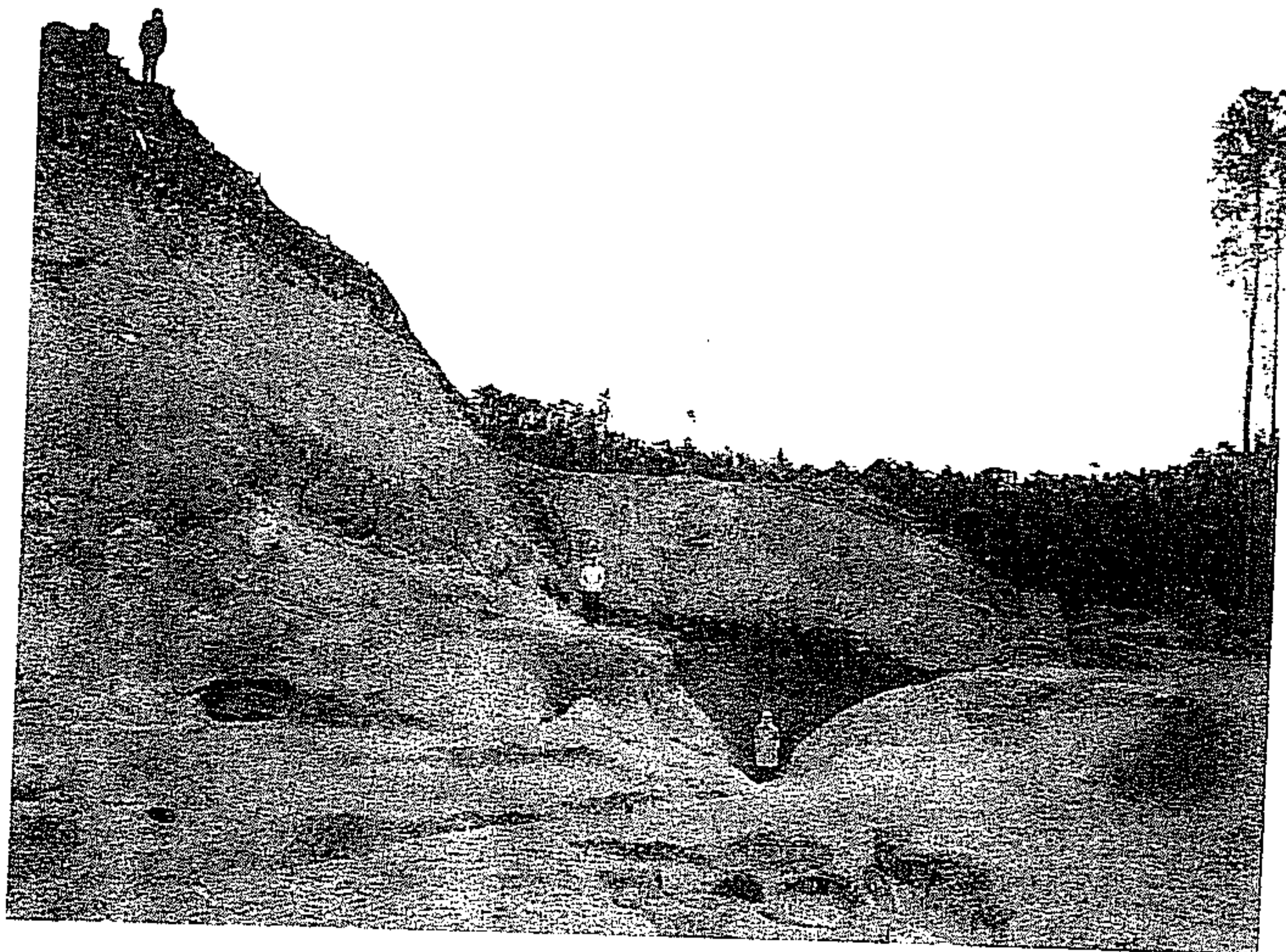
以上のように大改造を受けてさらに強固な城になった岡城ですが、16 世紀中頃の遺物を最後にそれより新しい遺物は見られなくなり、その頃城としての機能を失ったものと思われる。

V 岡城の城主

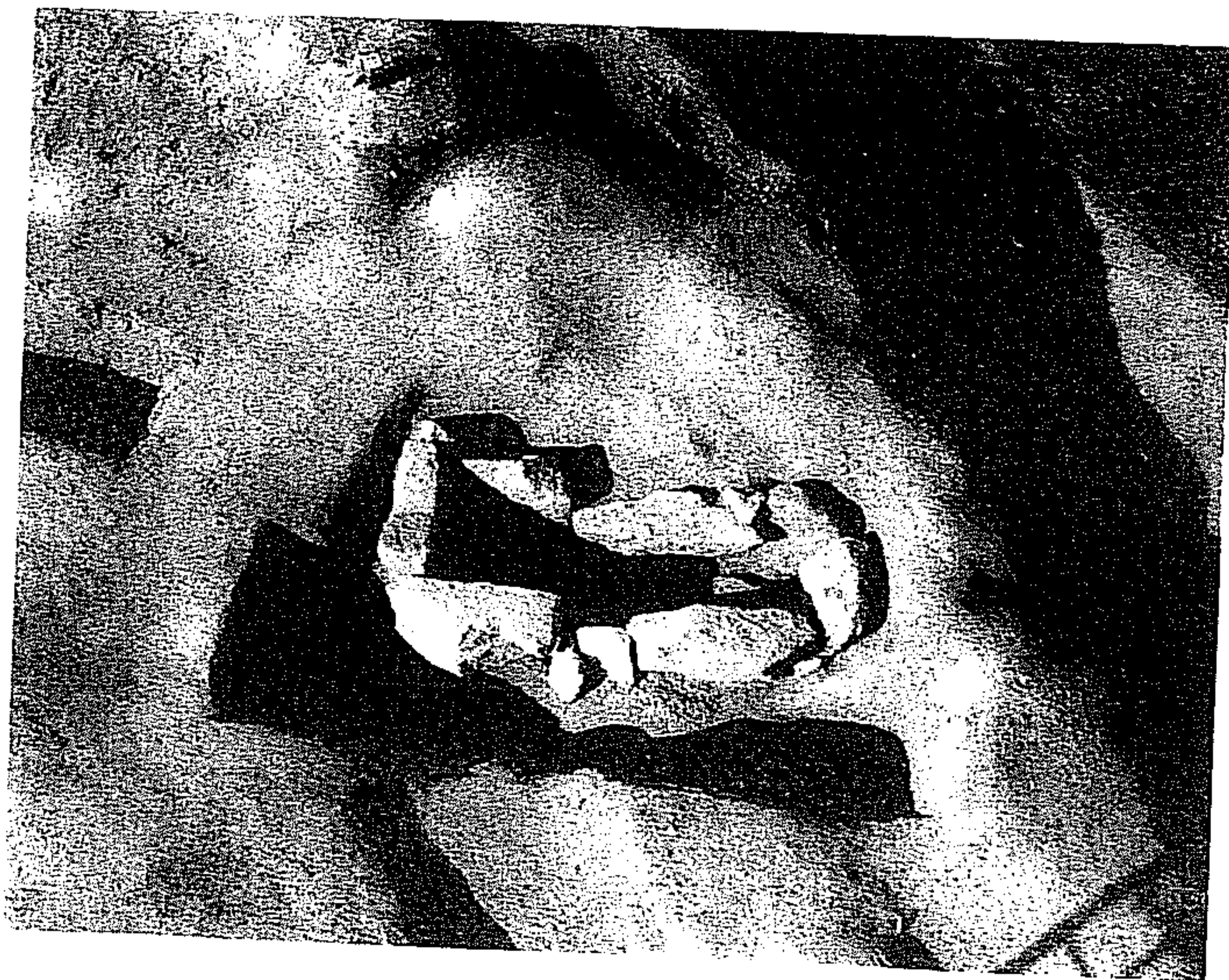
上記のような特徴を持つ岡城跡ですが、その城主はどのような人たちだったのでしょうか。城主と伝えられる岡氏は天野氏の一族とされ、関ヶ原合戦の後、天野氏について山口に移っています。岡氏について知られるところはその他に無く、確かなところはわかりません。しかし、山口に移った志和東の天野氏が西志和地区に勢力を及ぼすようになるのは 16 世紀の半ば以降です。岡城跡の背後にそびえる生城山城が築かれたのも 16 世紀の末期ですから、岡城が存在した頃にだれがいたのか不明といわざるを得ません。しかし、推測が許されるならば、鎌倉時代、当時志芳庄と呼ばれた志和地区に地頭として東国から移住してきた 3 家の天野氏、志和西天野氏、志和東天野氏、志和堀天野氏の内、志和西天野氏の居城と考えるのが最も自然です。ただ、志和西天野氏の事蹟はほとんど知られておらず、南北朝時代までは確認できるのですが、その後その存在を示すものはありません。ただし、16 世紀の中頃になると志和東天野氏でも志和堀天野氏でもない、天野隆誠という人物が現われ、毛利氏に従って大内氏と戦っています。しかし、これも 1557 年の古文書を最後にどこにもその存在を示さなくなります。天野隆誠が見られなくなる 16 紀半ばと岡城の廃絶年代の 16 世紀世半ば頃という符号は天野隆誠が城主だったことを示すと考えることも可能であるといえないでしょうか。

根拠は、はなはだ薄弱ですが、少なくとも同時期の志和東天野氏の居城米山城よりも大規模な岡城は、その堅固さと併せて安芸国でも有数の豪族が居城していたと推測させるのに十分な極めて優れた特徴を有しているということは間違い無いといえるでしょう。

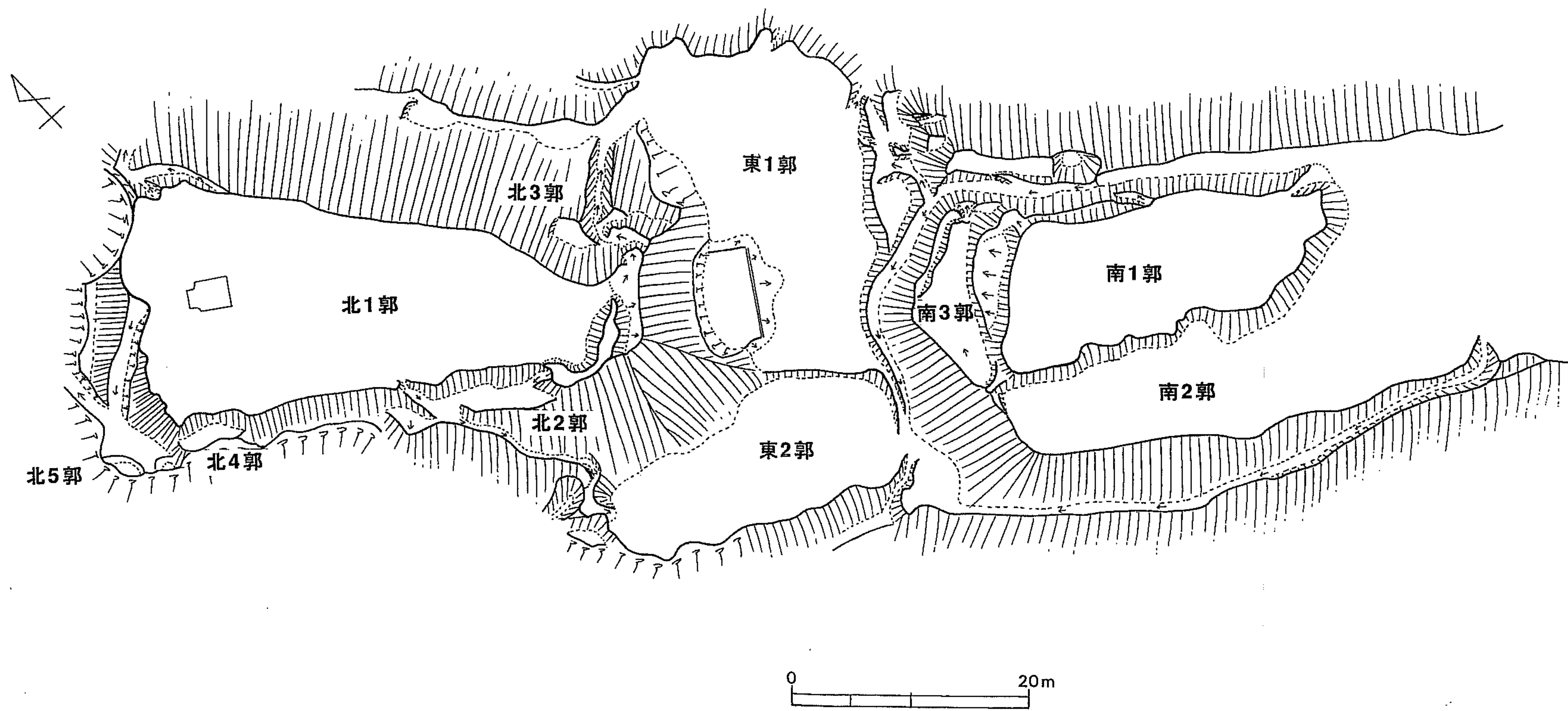
岡城古墳 北 1 郭の北西端で見つかりました。埋葬施設は小型の箱形石棺で平たい石を 1 段から 2 段にわたって積み上げ、底には平たい石を数枚敷いていました。墳丘は、岡城築城の際、大幅に削られており確認できませんでした。石棺の中からは碧玉製の管玉が 1 点出土しました。古墳の時期は周辺から出土した須恵器から 6 世紀頃のものと思われる。



3号堀と北1郭切岸



岡城古墳



岡城跡遺構配置図 (S=1:400)